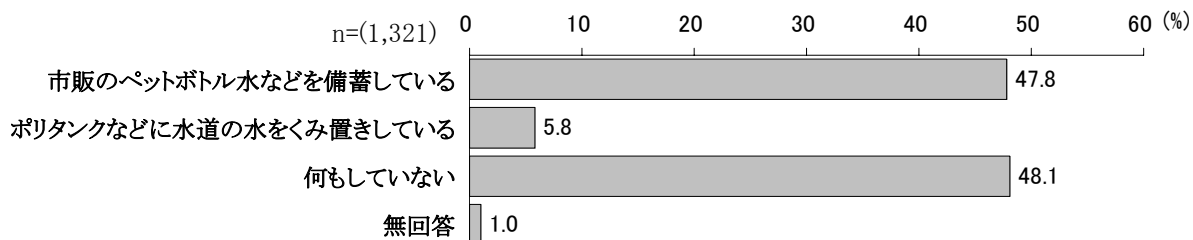


### 3. 災害時の飲料水の確保について

#### (1) 災害に備えての飲料水の保存状況

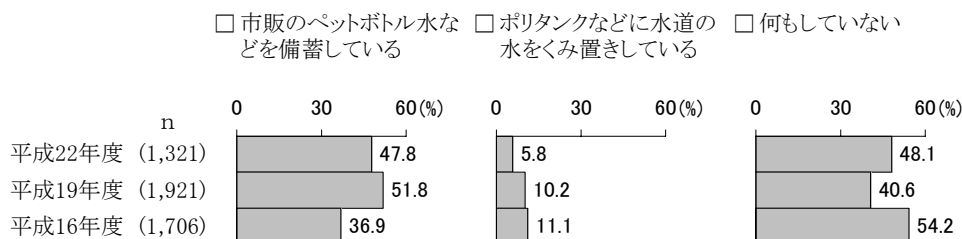
◇「市販のペットボトル水などを備蓄している」「何もしていない」がともに5割弱

問4 あなたのご家庭では、災害に備えて飲み水をどのように保存していますか。(〇はいくつでも)



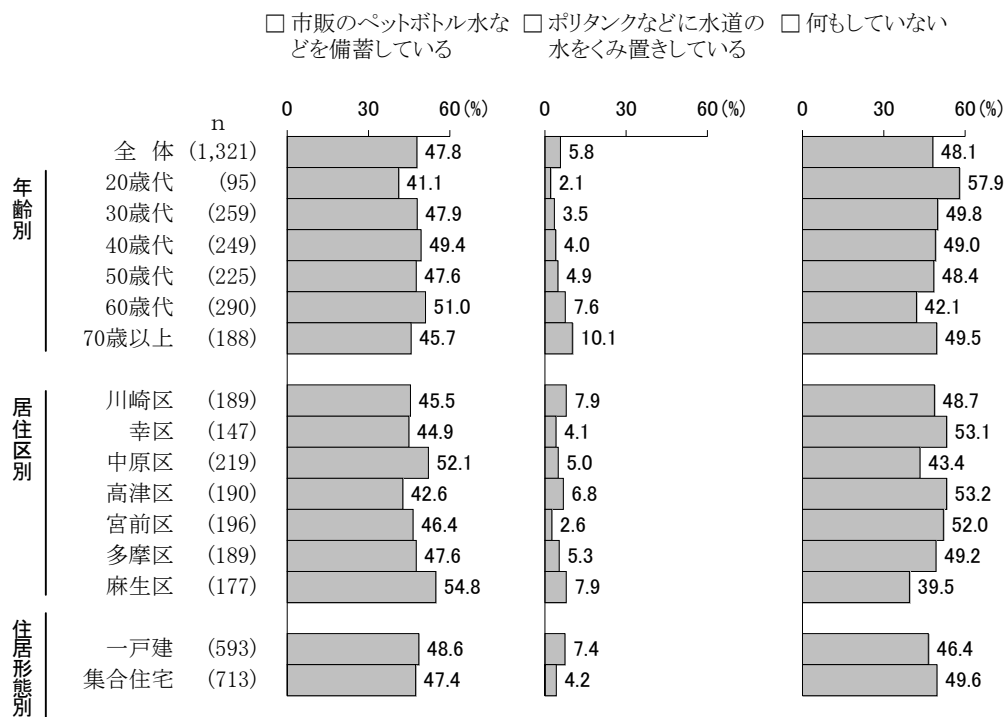
災害に備えての飲料水の保存状況は、「市販のペットボトル水などを備蓄している」(47.8%)、「ポリタンクなどに水道の水をくみ置きしている」(5.8%)、「何もしていない」(48.1%)となっている。

#### 【経年比較】



経年で比較すると、平成19年度調査に比べ「市販のペットボトル水などを備蓄している」が4.0ポイント、「ポリタンクなどに水道の水をくみ置きしている」が4.4ポイント減少し、「何もしていない」が7.5ポイント増加している。

○年齢別／居住区別／住居形態別 災害に備えての飲料水の保存状況



年齢別にみると、「市販のペットボトル水などを備蓄している」はいずれの年代も4割以上、「ポリタンクなどに水道の水をくみ置きしている」は、数値は低いですが年齢が高くなるほど割合が高くなっている。

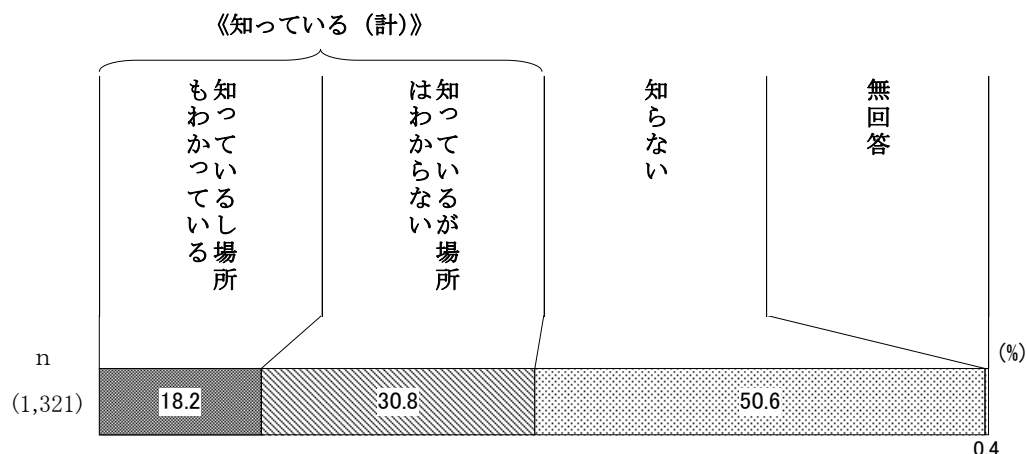
居住区別にみると、「市販のペットボトル水などを備蓄している」は、中原区、麻生区で5割以上と高くなっている。

住居形態別にみると、一戸建のほうが「ポリタンクなどに水道の水をくみ置きしている」割合がやや高くなっている。

(2) 応急給水拠点設置の認知度

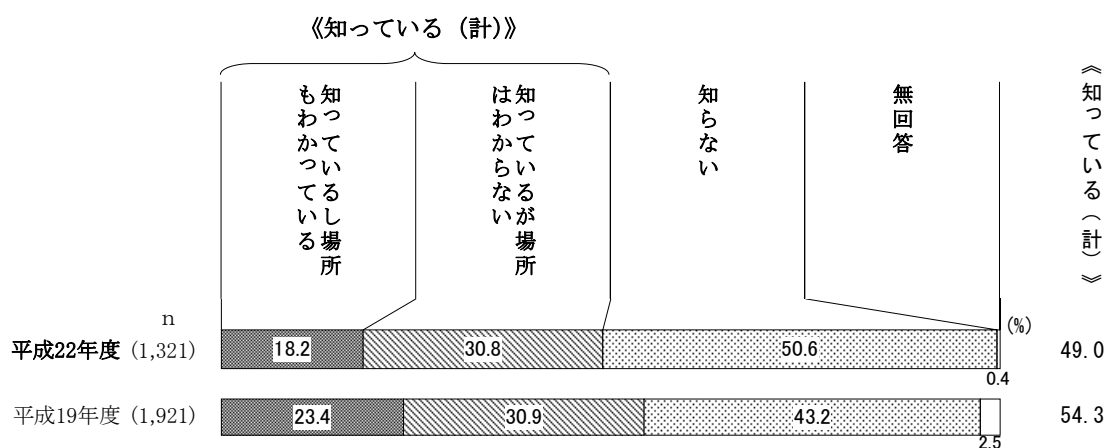
◇「知らない」が5割

問5 川崎市では災害時でも水道水が出る応急給水拠点（仮設給水所）を、市内117か所（平成22年3月31日現在）に設置しています。あなたは、応急給水拠点が設置されていることをご存知ですか。（〇は1つだけ）



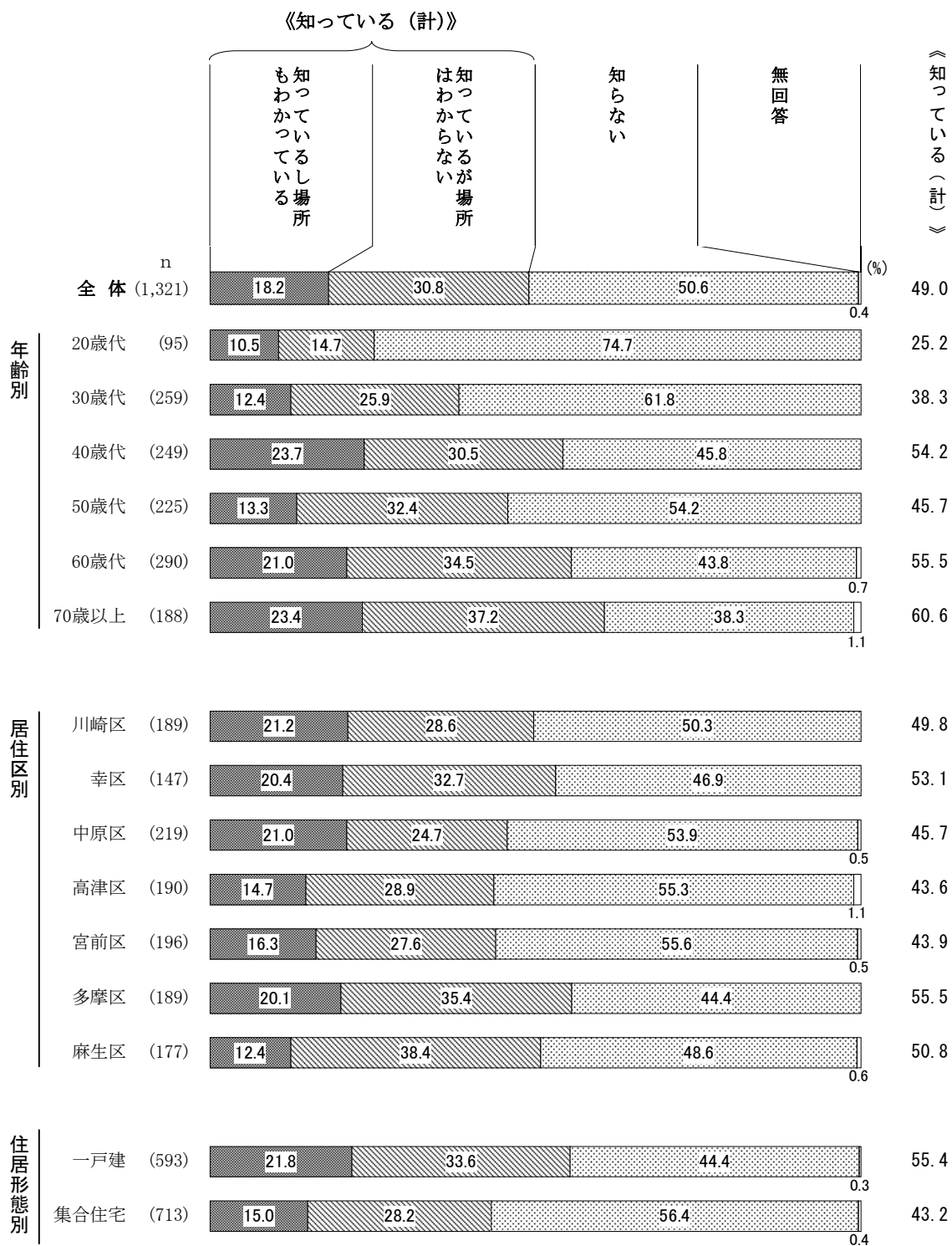
応急給水拠点設置の認知度は、「知っているし場所もわかっている」（18.2%）、「知っているが場所はわからない」（30.8%）、「知らない」（50.6%）となっている。

【経年比較】



経年で比較すると、「知っているし場所もわかっている」が5.2ポイント減少し、「知らない」が7.4ポイント増加している。

○年齢別／居住区別／住居形態別 応急給水拠点設置の認知度



年齢別にみると、概ね年齢が高くなるほど《知っている (計)》の割合が増加している。

居住区別にみると、《知っている (計)》の割合は、多摩区で5割台半ばと最も高く、高津区、宮前区で4割強と低い。「知っているし場所もわかっている」は、麻生区で1割強と最も低くなっている。

住居形態別にみると、一戸建のほうが《知っている (計)》の割合が12.2ポイント高くなっている。